

トムドム
 ハーガー
 とむぞう
 へったド
 野菜は国産
 の絵をあ
 りしめて
 親しまれ
 て



せる紙を同店が張り出した以降も連日、買い物客や夏休みの子どもたちでにぎわう。知り合いから閉店を聞き福山市駅家町から駆け付けたパート従業員、小林倫子さん(37)は「中学時代、友達と福山駅前のお店に通い詰めた思い出の味。閉店はさみしい」と話

す。
 ドムドムを運営するドムドムフードサービス(神奈川県厚木市)の親会社レンブランドホールディングス(同)は「諸事情により閉店となりましたが、惜しんでくださるお客さまに心からお礼申し上げます」。府中天満屋を運営する天満屋

ストア(岡山市北区)は閉店後もこれまで通り買い物客のイートインスペースとして使う。飲食店のテナント誘致を検討していくとしている。
 ドムドムは1970年、東京都町田市に1号店を開いた。ショッピングセンター内を中心に97年には

全国355店あったが、店舗整理のため22日現在、31店にまで減った。県内では福山市や広島市、三次市などにもあったが順次閉店。府中FC店がなくなると、中国地方には岡山市の2店、倉敷市の1店だけとなる。
 (野平慧一)

創業150年 豆菓子世界へ

豆菓子製造の徳永製菓(福山市胡町)は今年、創業150年を迎えた。1869(明治2)年に事業を始め、福山空襲などの苦難を乗り越えてきた。長年培った味やブランドを備後から世界へと広げるため、食品安全管理の国際規格を取得。健康志向を重視した商品開発も進め、新たな飛躍を目指す。竹炭、黒トリュフ、コーンポタ

ーシユ…。多彩な味付けの約70種類の豆菓子が、趣のある和風建築の売り場に並ぶ。本社隣の直売店「豆徳本店」。毎月新商品を加え、店頭以外を含め商品は200種を超える。
 1869年、雑穀の取り扱いを始めた。大八車に商品を積んで各地へ運んだ。1945年8月8日の福山空襲で被災し、今の建物は戦後間もなく建てられたという。

福山の徳永製菓 輸出視野に国際食品規格



色とりどりの豆菓子をそろえる「豆徳本店」

「会社の建物は焼けたけれど、戦後はすぐ出荷を再開したそうです」と8代目社長の上迫豊さん(52)は説明する。
 1世紀半の歴史の中で豆菓子作

りのほか、製氷やパン製造、菓子の小売りなど多様な事業に挑んできた。転機は2002年。いったん豆を竹炭でコーティングした「竹炭豆」が健康志向の高まりもあって大ヒットし、相手先ブランドによる生産(OEM)をメインにしつつ、屋号「豆徳」を冠した自社商品の豆菓子販売も増えた。
 輸出拡大を目指して昨年8月、福山市大門町に鉄骨2階建て延べ約1300平方メートルの新工場を建てた。今年5月、食品安全管理の国際規格「FSSC22000」を取得。小麦粉を使わないグルテンフリーの豆菓子など、海外向けの商品開発も進める。

輸出の売り上げは、17年度の約4千万円を5年後に6倍の2億4千万円へ増やす計画。上迫社長は「創業200年の時、令和元年が会社の転換期だったと思えるようにしたい」と夢を描く。
 (榎本直樹)

町内の飲食店などが屋台を構えた。青年部の宮本崇光部長(40)「世羅町の津田は「世羅の魅力を満喫し、梨狩りなどにも来てほしい」と話していた。
 (神下慶吾)

核廃棄物の処分 仕組みなど説明

福山で1日説明会
 原子力発電環境整備機構(NUMO)と経済産業省資源エネルギー庁は9月1日、福山市西町の福山商工会議所で、原発から出る高レベル放射性廃棄物処分に關する説明会を開く。参加者を募集している。
 2年前に公表された高レベル廃棄物を「地層処分」する際の適性度合いを示す「科学的特性マップ」への理解を深めてもらい、処分の仕組みや候補地の選定過程などを説明する。グループごとの質疑もある。
 説明会は午後1時半〜4時の予定で参加無料。事前に電話かファクス、NUMOのホームページで申し込む。NUMO広報部 ☎03(6371)4003 平日午前10時〜午後5時。

好評開催中!

みんなで学ぶ夏休み 自然科学教室 てんまや水族館

海のいきもの なんでもNo.1と